

一 内陣

改札を入り、左手畳敷きの内陣へとお進み下さい。頭上の欄間で燦然と輝くのは**来迎二十五菩薩像**で、手に手に楽器をたずさえ音楽を奏でながら、極楽よりお迎えに来て下さる姿を示しています。よくご覧頂くと、一番左側の区画中央に、誰も乗っていない蓮台があります。善光寺にお参りになった皆さんが極楽へと旅立つための用意されたものだとわれています。

その左右には、西国・坂東・秩父の各観音霊場札所の観音像が安置されています。善光寺はこれら霊場の番外札所となっており、満願された方々が御礼に善光寺へ参詣する習わしがあります。内陣右と左の壇上に安置される丈六の大仏は、**地藏菩薩像**と**弥勒菩薩像**(阿弥陀如来像)です。



二 御本尊

一光三尊阿弥陀如来

内陣左側の焼香台より内々陣奥を拝すると、金欄のお戸帳が懸かるところが**瑠璃壇(るりだん)**で、秘仏の**御本尊**が安置されています。このお戸帳は法要時には上げられ、御本尊を安置する宮殿(くうでん)を拝することができます。善光寺御本尊の一光三尊阿弥陀如来(いっこうさんぞんあみだによらい)さまは、欽明天皇の十三年に百済から日本へお渡りになった日本最古の仏像です。御開山本田善光卿によって皇極天皇の元年(642)、当地に祀られましたが、その後絶対の秘仏とされました。善光寺信仰は、日本仏教の根本ともいべきこの御本尊に対する信仰で、そのため、宗派を超えてすべての人々を受け入れることを旨としてまいりました。

瑠璃壇の手前には、御本尊の放たれた光明によって灯された**永代不滅の常燈明(御三灯)**が安置されています。



三 御開山

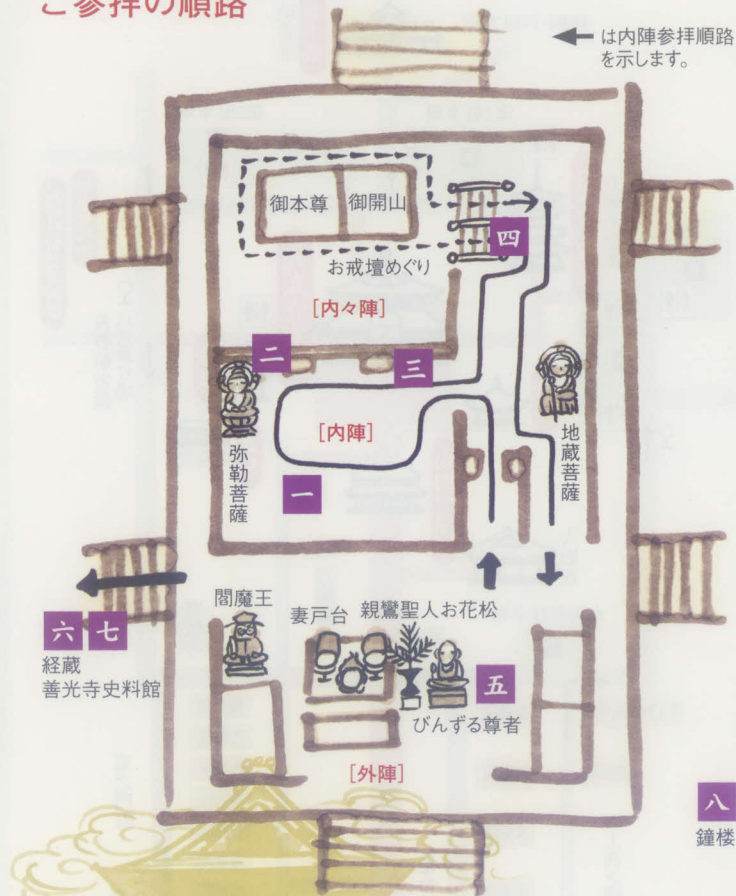
ほんだよしみつきょう 本田善光卿

内陣右側の焼香台より内々陣奥を拝すると、善光寺を開かれた本田善光卿とご家族、奥方の弥生の前、御子息の善佐(よしすけ)をお祀りする**御三卿の間**があります。

善光寺の寺号は、善光卿の名に由来するといわれています。七年に一度の前立本尊御開帳では、御本尊の分身である前立(まえだち)御本尊が、宝庫よりこの御三卿の間左寄りにしつらえられた御仮屋へと遷座されます。



ご参拝の順路



← は内陣参拝順路を示します。

六 七
経蔵
善光寺史料館

八
鐘楼

●ご注意

本堂内では、カメラおよびカメラ付携帯電話での写真やビデオの撮影は禁じられています。また、暗がりではお手持ちの財布・貴重品には、十分お気をください。

四 お戒壇めぐり

内々陣の右側を通って奥へ進むと「お戒壇めぐり」の入口があります。お戒壇めぐりは、御本尊の安置される瑠璃壇下の真っ暗な回廊を通り、中程に懸かる**極楽の錠前**を探り当て、秘仏の御本尊と結縁する道場です。右手で腰の高さの壁を伝ってお進み下さい。お戒壇の入口には、タイ国より贈られた仏舎利(お釈迦様の御遺骨)とお悟りを開かれたお釈迦様の像が安置されています。



五 外陣

改札の外に広がる板敷の空間が外陣です。外陣中央には、妻戸台と呼ばれる舞台があります。その右側には**びんずる尊者(撫で仏)**が安置されています。びんずる尊者は、お釈迦様の弟子、十六羅漢の一人で、この像に触れることでその神通力にあやかり、病気を治していただくという信仰があります。妻戸台とびんずる尊者の間には**親鸞聖人お花松**があります。鎌倉時代に親鸞聖人が参詣の折、御本尊に松を捧げられたのになみ、現在でも生けられているものです。妻戸台左側には、**閻魔王**ならびに**十王像**が安置されています。



寶頭盧(びんずる)尊者

あさじ お朝事

善光寺参りの醍醐味を味わうには、毎朝行われるお朝事にぜひご参詣下さい。清新な朝の空気の中、本堂に全山住職の厳かな読経が響きわたり、祈りの聖地として脈々と伝えられてきた善光寺本来の姿にまみえることができます。

お朝事に付随して行われるご回向では、ご参詣になった皆さんの先祖供養や祈願が行われ、内々陣にて法要に参列していただくことができます。お朝事の開始時間は、夏季の最も早い時間が5時30分、冬季の最も遅い時間で7時となります。

※詳しくは、善光寺事務局 [電話 234-3591] にお尋ね下さい。



ご回向(ご供養、ご祈願)の
お申し込みは、随時受付しております。

身はここに 心は信濃の善光寺
導きたまへ 弥陀の浄土へ

如来さまのお膝元で、ご供養を通じてご先祖さまと心をかよわせ、ひいては生死を超えた広大無辺な大いなる仏さまの、いのちの中に生かさせていただいていることに感謝する。そして、現世における様々な煩惱についての救いを求めていく。それが善光寺詣りの真骨頂です。

※本堂手前の正面授与品所勸募受付と本堂内勤番所で承ります。お気軽にご相談ください。